



クリスマスまでに3000人の子どもに チャイルド・スポンサーを！

11月1日～12月28日

ありがとう！
30th
Anniversary
つながろう、
子どもたちのために



ワールド・ビジョン・ジャパンは今年で設立 30 周年を迎えました。これまで多くの子どもたちとつながり、支援を届け続けてくださった皆さまに心から感謝いたします。

厳しい環境に生きる世界の子どもたちにさらに支援を届けたいとの思いから、11月1日(水)～12月28日(木)まで、クリスマスキャンペーンを実施します。3000 人の子どもたちのチャイルド・スポンサーになってくださる方を募集しています！また、特に紛争や貧困の影響を受け、食糧と水を必要としている子どもたちのための「クリスマス募金」へのご協力をお願いしています。ワールド・ビジョン・ジャパンは激しく変化する世界の中で、今、希望が閉ざされた子どもたちとつながり、未来を変えていきたい。そのために、より多くの方々と“つながりたい”、と願っています。ひとりでも多くの子どもたちに希望を届けるため、ぜひ皆さまの力をお貸しください！

つながろう！子どもたちのために

チャイルドを増やして支援する

もう一人分のご支援を追加してくださる方、また、新しくチャイルド・スポンサーになってくださる方のご連絡をお待ちしています。



支援の輪を広げる

・ご家族やご友人・知人に支援について話す

※持ち歩きやすいサイズの資料もあります。WEB または TEL で「ミニフライヤー」をご請求ください。



- ・現地から届く手紙や写真、動画をシェアする
- ・SNS やブログで支援について書く
- ・WVJ 公式 SNS の投稿をシェア、いいね！をする

30周年特別企画「石けんがつなぐ！
あなたと世界の子どもたち」に参加する
30周年を記念して、チャイルド・スポンサーの
玉の肌石鹸様より寄付をいただきました。詳しい
参加方法はホームページをご覧ください



ワールド・ビジョン 石けん



ワールド・ビジョン・ジャパンの
公式SNSを応援してね！
世界の子どもたちが待っています！



LINE@
@worldvision

New!
LINE@
はじまりました！



f FACEBOOK
worldvisionjapan



Twitter
WorldVisionJPN



@ Instagram
worldvisionjapan



特集

貧しい故郷から 都会へ逃れた先に

お母さんと子どもたちの健康のために
企業連携レポート：武田薬品工業株式会社

ありがとう！
30th
Anniversary
つながろう、
子どもたちのために

World Vision NEWS No.189 2017年11月発行 ワールド・ビジョンニュース
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 3F TEL 03-5334-5351(平日9:30～17:00) FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp www.worldvision.jp

World Vision
この子を守る。未来を救う。

World Vision News No.189

特集 貧しい故郷から都会へ逃れた先に

World Vision No.189
News

2017年11月 ワールド・ビジョンニュース

World Vision
この子を守る。未来を救う。

特集

特集

特集

貧しい故郷から 都会へ逃れた先に

もう一度、学校に通わせてあげたい母の想い
もう一度、学校に通いたい子どもの想い
でも、いくつもの厳しい現実が、立ちはだかります
より良い生活を目指して、貧しい故郷から首都へ出てきたはずなのに
どこに行っても、貧困から抜け出せない

アイサリちゃんを
動画でご覧ください



都会での過酷な生活を余儀なくされる子どもたち

ヒマラヤ山脈を擁する南アジアの小さな国、ネパール連邦民主共和国（以下、ネパール）は国土の約8割が山岳地帯。急峻な土地での暮らしは厳しく、今、世界で最も貧しい国の1つです。貧困から逃れたいと故郷（山岳・丘陵地帯）を離れ、都会を目指す人たちが後を絶ちません。しかしそこで待ち受けるのは、教育を受けていない親の就職難、劣悪な衛生環境での生活、家事に追われ学校に通えない、などの厳しい現実でした。



頭にシラミが湧いてしまい、お気に入りの髪の毛を切られてしまったアイサリちゃん。それ以来、ずっとフードをかぶっています



（左から）弟、お母さん、妹、アイサリちゃん



時間があれば、学校に通っていた頃のノートを読み返して、故郷での生活を思い出しています

都会の生活のほうが過酷

アイサリちゃん（9歳）

お母さんと4人の兄弟と暮らすアイサリちゃん。険しい山奥の村から、より良い暮らしを願って2カ月前に都会に出てきました。何も持っていないアイサリちゃん家族は、スラム街で暮らす人に食べ物もらって、ギリギリの生活を送っています。故郷では、学校に通えていましたが、今の都会での生活は思い描いていたものとはかけ離れ、厳しい毎日。学校には通えていません。

家計を支えるのはお母さんですが、読み書きができないため仕事が見つからず、建築現場で重労働をしています。アイサリちゃんは、少しでもお母さんの力になればと、1日中、家事や兄弟の世話をして過ごしています。「学校に行きたい。友だちと遊びたい」叶わぬ想いを抱えながら、今日も生活しています。



アイサリちゃんが暮らす首都カトマンズのスラム街。近くには汚い川が流れていて、異臭が絶えません



毎日、この井戸で水をくみ、自分や兄弟の身体を洗います



お母さんはゴミ山に

ロサンくん（8歳）

お父さんを病気で亡くし、お母さんと2人で暮らすロサンくん。収入を得るために都会へ出てきましたが、お母さんが唯一得られた仕事場は、ゴミ山でした。早朝から夜遅くまで働くお母さんを、ロサンくんは、1人で、空腹のまま待っています。「学校へ通って、立派な人になりたい」と話すロサンくん。お母さんも、ロサンくんに教育を受けさせたいと思っていますが、経済的に不可能な状況です。



ゴミ山で働くお母さん。ひどい匂いが体中に染み付きます。「子どものためだもの。つらくない」お母さんは、言います



毎朝、一杯のチャイを飲むだけ。朝ごはん、お昼ごはんはありません



友だちがいないロサンくんは、お母さんを見送った後、1人で帰りを待ちます

ネパール担当スタッフより一言

子どもたちが夢を失わずに生きていけるように（根本的な解決に挑むチャイルド・スポンサーシップ）



地面にノートを広げて懸命に勉強する支援値の子どもたち

アイサリちゃんやロサンくんは、故郷での厳しい貧困から抜け出せず、最低限の暮らしさえ成り立たなくなってしまう家族です。アイサリちゃんが大事そうに私に見せてくれたノートは、故郷で学校に通っていた頃のものです。それを毎日、スラム街の一角で読み返しながら、「学校へ行きたい、学びたい」と願う姿が、私の胸を打ちました。WVJ は彼らの故郷のような厳しい環

境の地域での開発事業（チャイルド・スポンサーシップ）に力を注いでいます。長い年月をかけ、学校での学びをはじめとした子どもたちの健やかな成長のための環境を整えています。故郷での貧しい生活が底上げされれば、子どもたちが夢を捨てずに生きていくことができます。必要を再確認した今、一つひとつの活動を丁寧に進めたいと、思いを新たにしています。



ワールド・ビジョン・ジャパン支援事業部 開発事業第2課
加藤 奈保美（かとう なおみ）

神奈川県生まれ。建設コンサルタント会社に勤務後、2008年、ワールド・ビジョン・ジャパンに入団。ミャンマー、ハイチで復興支援に取り組んだのち、東日本大震災緊急復興支援のため岩手県に駐在。2014年から、アフリカのスポンサーシップ事業を担当。2017年1月からネパール駐在。



お母さんと子どもたちの健康のために 1,400 人の「地域ヘルスワーカー」を育てる事業が始まりました

丘陵地帯の地域保健施設に予防接種を受けに来た母子（ネパール・ドティ郡）



地域の保健施設で診察を待つ母子たち（ネパール・ドティ郡）

2016 年 10 月に始まった「地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム」は、武田薬品工業株式会社の CSR 活動^{*1} の一つの取り組みとして、従業員投票によって選ばれたワールド・ビジョン（WV）との協働プロジェクトです。

SDGs^{*2} が推進されるなか、グローバルに事業を展開する製薬会社として、途上国の人々の保健医療へのアクセスの向上に貢献したい、という責任ある企業市民の想いがカタチになりました。本プロジェクトはインド、バングラデシュ、ネパール、アフガニスタンで実施します。5 年間で地域の最前線で保健医療を担う 1,400 人の能力を強化し、約 50 万人に保健医療に関する知識とサービスを提供することで、お母さんと子どもたちの「予防可能な死」を削減します。



^{*1} Corporate Social Responsibility の略：企業による社会貢献活動のこと
^{*2} 持続可能な開発目標。国連加盟国が 2015 年に採択した、人類の持続的な開発を官民挙げて目指す 17 目標のこと



武田薬品工業株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ
CSR ヘッド

圭室 俊雄 様

当社は、グローバルに展開する CSR プログラムのテーマを「途上国・新興国の人々の健康に貢献する予防活動」に定め、世界約 70 カ国 3 万人の全従業員を対象とした投票により、実施するプログラムを選定しています。本プログラムも当社全従業員の期待を受けて、選ばれたものです。途上国の母子保健の改善を目指す本プログラムは、SDGs：Goal 3「すべての人に健康と福祉を」に貢献するものであり、グローバル NGO としてのワールド・ビジョン様のノウハウとリソースを通じ、現地の方々にとって、より良い保健環境が実現されることを期待しています。



ワールド・ビジョンならではの支援

5 年間にわたり、それぞれ特色ある課題を抱える 4 カ国で共通の目標を達成する、というスケールの大きなプロジェクト。成功するためには、各国の事情を良く理解し、事業対象地域の人々や行政機関と信頼関係が構築されていることが重要です。長年これらの国で支援活動の実績を持つ WV だからこそ実現できる支援です。

バングラデシュ



5 歳未満の子どもたちの栄養不良が深刻な地域において、子どもの栄養や保健に関する知識を持つ地域保健ボランティアを育成します。



保健サービスの状況を把握するため、5 歳未満の子どもがいる 1,500 世帯に聞き取り調査を行う様子

インド



低カースト層が多く住む地域において、コミュニティレベルで働く保健ワーカーの能力強化に取り組むとともに、公的な保健サービスの質が向上するよう、行政機関へ働きかけます。



機能していない地域の保健センターの実態を調査し、行政に改善を働きかけます

アフガニスタン



合計 60 名の助産師を養成し、地域住民への保健サービスを担う「ファミリー・ヘルス・ハウス」を建設します。



地域の長老たちに事業の説明を行い、理解と協力を得ることも重要な活動です

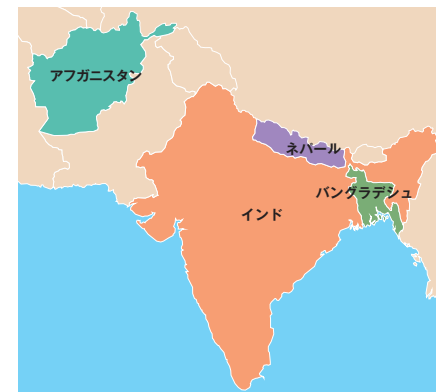
ネパール



アクセスの厳しい丘陵地帯において、お母さんたちにとって最も身近な地域の保健ボランティア組織の能力を強化するとともに、地域の保健施設の整備を行います。



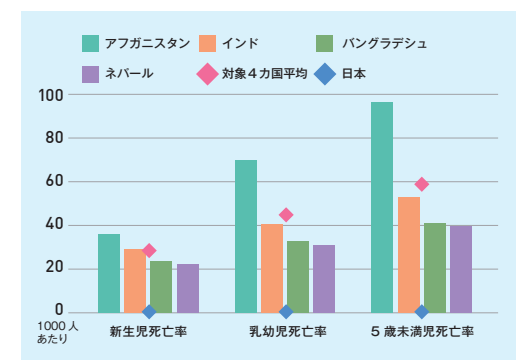
母子向けプログラムの一環で子どもの体重測定を行う様子。成長を定期的に測り、必要な栄養指導を行います



南アジア4カ国の母子保健の現状

事業対象 4 カ国の新生児・乳幼児の死亡率は日本に比べて未だ高い傾向にあります（右図参照）。また 10 万出生数ごとの妊産婦死亡数は 4 カ国平均 238 件と、日本の 6 件と比べて深刻な問題となっています。

これは、専門知識を持った保健・医療従事者が足りず、衛生的な環境での出産がかなわなかったり、妊娠・出産時や子どもの出生後に十分な医療サービスを受けることができないことが一因となっています。



2015 年ユニセフ「世界子供白書」より

プロジェクト担当スタッフより一言



ワールド・ビジョン・ジャパン支援事業部 開発事業第 2 課

蘇畑 光子（そばた みつこ）

事業地を訪問するたび、日本とは異なる過酷な環境に直面し、すべてのお母さんに安心して新しい命を育ててほしい、すべての子どもに健やかに成長してほしい、と心から願わずにはいられません。武田薬品工業株式会社様に託していただいた想いとご支援に感謝しつつ、現地スタッフ、また多くの関係者と協力しながら、全力を尽くしたいと思います。



支援地 訪問ツアー 報告とともに！

支援地 訪問ツアー 報告とともに！

Rwanda

ワールド・ビジョン・ジャパンがチャイルド・スポンサーシップを通じて支援を届けている 21 カ国、45 の地域の中から、今回はルワンダの 2 カ所の支援地域（キラムルジ、グウィザ）をご紹介します。

2017 年 6 月 25 日（日）から 7 月 2 日（日）に実施された、チャイルド・スポンサーの「地球あちこちルワンダを知る旅」（支援地訪問ツアー）で、19 人のチャイルド・スポンサーがキラムルジ地域開発支援（ADP）を訪問し、チャイルドと会ってきましたので、そのときの様子とあわせて報告します。

ルワンダ基本 DATA

正式名：ルワンダ共和国

首都：キガリ

面積：2.63 万 km²

人口：約 1,210 万人

宗教：キリスト教（カトリック、プロテスタント）、イスラム教

言語：キニアルワンダ語、英語、フランス語

チャイルドとの交流

首都キガリから車で約 3 時間の現地事務所に着くと、チャイルドたちの歌と踊りの大歓迎を受けました。写真を一緒に見たり、おもちゃで遊んだり、チャイルドの家族との交流も楽しいひと時となりました。



木かげに集まって誇りを持って学んでいる子どもたち、それを導いているボランティアの大人たち、とても感動しました。彼らの貢献と情熱はすごいです。

読書クラブにてチャイルド・スポンサーより子どもたちへメッセージを伝えている様子

読書クラブ

勉強が遅れがちな子どものために、地域のボランティアと、場所を提供してくれる村人の協力で運営されています。放課後に集まり、歌や踊りを取り入れた、学校とは異なる学習方法に楽しみながら参加し、読み書き力の向上をめざしています。

読書クラブの様子を動画で
ご覧ください！



ハチの巣からハチミツを採る
遠心分離器



養蜂グループのリーダーから
話を聞いている様子



ペットボトルに入ったハチミツ
を紹介する WVJ スタッフ

養蜂貯蓄グループ

貯蓄グループのメンバーは、もともと、チャイルドを訪問し、手紙を届けたりするワールド・ビジョンのボランティアでしたが、貯蓄グループの活動を知り、自分たちも始めることにしました。積み立てたお金でハチミツを採る器具を購入、技術の支援を受け、販売ができるようになりました。今後は「オリジナル“ブランド”」のラベルを制作し、さらにお店を増やしたい」とのことでした。

「和解」の取組み—平和の木プロジェクト

支援地域では、1994 年に起きたジェノサイド（大量虐殺）の加害者と被害者が、お互いの家に植えた木を育てるために行き来することなどにより、和解を促進する「平和の木プロジェクト」を行っています。子どもたちの肩を抱き、憎しみを次世代へ引き継がないように許し合い、「今は、再び親しい隣人となった」と、静かに語る 2 人の姿に、深く考えさせられ、感動したとの声が多くありました。



子どもたちの肩を抱いて和解について語る
家族を殺された男性



被害者と加害者が、ともにオレンジの木を
世話する様子

コミュニティワークに参加

4 人の子どもの抱え、牛とともに不衛生な家で生活してきたシングルマザーの家を、建て替える作業に参加しました。地域の人々とともに土をこねて、壁に塗りつける土壁作りに汗を流しました。「自分は忘れられた存在ではなかった」と感謝の祈りをささげるシングルマザーの姿に、涙を流す方もいました。

チャイルド・スポンサーが
家を建て替えている様子を
動画をご覧ください！



土を壁に力いっぱい投げつけます



バケツリレーで土を運ぶ



作業するチャイルド・スポンサーを歌で励ます地
域の人々



BEFORE
今までの家



AFTER
後日、状況を見に行ったところ、ここまで
出来上がっていました！

訪問したチャイルド・スポンサーの方々の感想

支援しているお金を有効に使っていただいている様子を目にして、より一層、これからもチャイルド・スポンサーを続けていこうという気持ちが強くなりました

ルワンダを知ることができ、チャイルドと家族に会うことができ、地域、支援者、スタッフの方々と様々な話をして、ワールド・ビジョンを通じて支援することの一部でいられることを、とても幸せに思いました

次のツアーは、2018 年 3 月、カンボジアです！
詳しくは P11 をご覧ください

グウィザ支援地域で見た、もうひとつの生計向上プロジェクト

ため池の上にやぐらのように立っているこの小屋は何でしょう？
正解はウサギ小屋。池に落ちるウサギの糞が、養殖されている魚の餌となります。魚を収穫できるだけではなく、増えたウサギを販売することもできます。地域の人々のさらなる収入の向上に役買っています。





3分でわかる 南スーダン

2013 年から南スーダン支援に
関わる千田スタッフが解説します



首都：ジュバ
言語：英語（公用語）、その他部族語多数
民族：ディンカ族、ヌエル族、バリ族、他多数
宗教：キリスト教、伝統宗教
面積：64万 km²（日本の約 1.7 倍）

南スーダンって、どんな国？

南スーダン共和国（以下、南スーダン）は、2011 年にスーダン共和国（以下、スーダン）から独立してできた世界で一番新しい国です。かつてイギリスとエジプトによる共同統治下に置かれていたスーダンでは、主にイスラム教を信仰するアラブ系住民が多い北部（現：スーダン）と、キリスト教や伝統宗教を信仰するアフリカ系住民が多い南部（現：南スーダン）を分断する植民地政策（南北間の交流禁止）がとられていました。1956 年にイギリス・エジプトから独立する際、北部と、分離・独立を求める南部の間で内戦が勃発し、以来 2011 年の南スーダン独立まで、約半世紀にわたる長い紛争が続きました。このため、南スーダンでは子どもだけでなく大人も、平和な状態をほとんど知りません。長い内戦を経てようやく独立した後も、キール大統領派とマシャール前副大統領派の対立が、大規模でより複雑化した紛争に発展しています。

人々はどんな問題に直面しているの？

水、食糧、薬、学校、トイレ、安全に寝られるところ ... 何もかもが不足しています。わかりやすく説明すると、

10 人中 7 人が小学校を卒業できない

10 人中 5 人が十分に食べることができない

10 人中 6 人が安全な水を得ることができない

10 人中 3 人が家を失い国内外に避難している
という状況です。



千田スタッフより一言

ワールド・ビジョン・ジャパン支援事業部 緊急人道支援課

千田 愛子（せんだ あいこ）

紛争が続く南スーダンで、状況を少しでも良くしようと奮闘するコミュニティの人々、元気いっぱいの子どもたち、前向きで懸命な現地スタッフなど、多くの素晴らしい人々と出会いました。愛する南スーダンの人々が、希望を取り戻し、平和に安心して暮らすことができるように、ぜひ応援をお願いします！

南スーダンでの食糧支援にご協力ください



全土に紛争が拡大し、多くの人が住む家を失いました



果てしなくテントが広がる国内避難民キャンプ。衛生状態は劣悪で、食糧も足りません



そんな困難の中にあっても、笑顔を向けてくれる子どもたちがいます

ワールド・ビジョン クリスマス募金

🔍



WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！



2017年7月WVカフェ in 広島の様子

「チャイルド・スポンサー同士で話せるのが楽しい！」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ（WV カフェ）」を全国各地で開催しています（参加費無料）。支援地域の子どもの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。参加ご希望の方は、事前にホームページ、E メール、お電話にてお申込みください。（締め切りは開催日の3日前です）

支援地訪問ツアーのご案内

2018年3月「地球あちこち～カンボジアを知る旅」2018年8月予定「地球あちこち～ウガンダを知る旅」支援地訪問ツアーでは、チャイルドに会い、支援活動の視察ができます。カンボジアのポニャー・ルウ ADP、ウガンダのナラウエヨ・キシータ ADP は、プロジェクト終了前にツアーで訪問する最後の機会です。ぜひご検討ください。

カンボジア

訪問先：ポニャー・ルウ ADP
トモ・ブオ ADP
ボレイ・チュルサル ADP
期間（予定）：2018年3月11日（日）～3月15日（木）
トモ・ブオ ADP
2018年3月15日（木）～3月21日（水）
ポニャー・ルウ ADP / ボレイ・チュルサル ADP

ウガンダ

訪問先：ナラウエヨ・キシータ ADP
キルヤンガ ADP
期間（予定）：2018年8月

旅行期間、募集人数、参加費、旅行会社の情報は準備中のため、決まり次第、ホームページや Enew でお知らせいたします。
※訪問国の治安状況や感染症の影響等により、ツアーが中止または変更となる場合があります
※それぞれ定員に達しましたら募集を締め切らせていただきます

WV カフェ・ツアーについてのお申込み・お問い合わせは

◎コンタクトセンター（支援者窓口）
TEL：03-5334-5351（平日 9:30 - 17:00）Eメール：dservice@worldvision.or.jp



お引越されいませんか？ ご連絡お待ちしています！

チャイルドからの手紙や成長報告、グリーティングカード、そして寄付金控除等に必要領収証。どれも世界に1通しかない大切な郵送物です。当団体は、東京都より「認定 NPO 法人」として認められており、皆さまからの支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置が受けられ、最大 40% が控除されます！ 2017 年計領収証は、2018 年 1 月下旬発送予定です。確実にお手元に領収証をお送りできるよう、お引越された方は、12 月 22 日までに必ずお知らせください。



メールアドレスをご登録ください！

メールアドレスをご登録いただくと、支援地域の最新情報が届いたり、ご支援いただいているチャイルドからの新しい動画到着のお知らせを受け取れます。

住所変更とメールアドレス登録の方法はこちら

- 1 ワールド・ビジョン お問い合わせ で検索
- 2 「お問合せ種類」で「登録情報の変更について」を選択
- 3 「お問い合わせ内容」に「住所変更」または「メールアドレス登録」とご記入の上、必要事項を入力してください

住所変更は
お電話・FAX・メールでも
ご連絡いただけます！



ワールド・ビジョン・ジャパンは、設立 30 周年を迎えました！！

ワールド・ビジョン・ジャパンは、2017年10月1日に、30周年を迎えました。これまでの歩みを支えてくださった皆さまに感謝し、また、今も支援を必要としている多くの子どもたちにつながっていく決意の下、2018年9月までの1年間、様々な取り組みを行ってまいります。次号のニュースレターではWVJ30周年特集号をお届けします。お楽しみに！



世界に思いをはせて Vol.2.

「リベリアの白い血」という映画を観ました。内戦からの深い罪悪感に苛まれ、その後の貧困とゴム農園での不当な重労働に苦しんだ拳句、家族のためアメリカンドリームを求めて渡米するリベリア人男性の話です。逆境にあっても生き抜こうとする主人公たちの強さと、それを受け止められず、

事務局長 木内 真理子

不公平と不条理を克服できない社会の弱さが心に残りました。私も現場に行くと、貧しくても強く生きる人々に出会います。彼らの窮状を変えたいと活動していますが、私たちも、彼らが豊かに生きることのできる社会に変わっていきたいと思いました。